



市議会議員  
上田由美子  
☎ 68-2106  
Fax 68-2146



前市議会議員  
砂田喜昭



前参議院議員  
たけだ良介

禁無断転載  
複写配布

# 補聴器助成 もっと多くの人に

## 年金者組合 市長に要請

北陸3県で初の「高齢者補聴器購入費用助成事業」が実施されています。この実現を求めてきた全日本年金者組合小矢部支部の八尾三紀夫支部長らは1日、桜井市長に会い、いつそうの充実と「聴力検診事業」の創設を要請しました。上田由美子市議が同席しました。



桜井市長に要請書を提出する八尾支部長(右から二人目)ら  
=12月1日、市役所

八尾氏らは、対象者の所得制限のため助成を受けられない人がいると訴え、全国の先進事例や、市の現行要件を撤廃・緩和する案を具体的に市長に紹介しました。

## J Aとなみ野で視察 上田由美子

市議会議員

J Aとなみ野でのタマネギ特産化のとりくみを研修してきました。J Aとなみ野農業機械センター(砺波市五郎丸)で11月17日に行われた小矢部市議会・砺波市議会議員研修会です。小矢部市での農産物特産化に生かすにはどうするか、農家の皆さんとも話し合ってみたいと思います。

初めに、2020年4月に完成した大規模園芸施設を見学しました。耐雪50kg/m<sup>2</sup>の低コスト耐候性ハウス10棟(5,040m<sup>2</sup>)です。ハウス内の温度センサーや日射センサーにより遮光カーテンなどの装置が自動で動き、安定した温度管理ができる施設です。2億円(税抜)の建設費のうち、国の交付金は8千8百万円、県・砺波市・南砺市の補助は計1千8百万円、自己資金は9千4百万円です。この施設では6〜9月にタマネギ苗を作り、11〜4月に小松菜を3回収穫しています。冬期間の遊休施設を活用し雇用を生み出しています。

その後、農産物処理加工施設(南砺市苗島)で、タマネギ乾燥施設の説明を受け、タマネギ集出荷貯蔵施設(砺波市五郎丸)で選別・箱詰め機械設備を見学しました。

## タマネギ 輸入から国産へ

研修会の最後に、J Aとなみ野経済部長雄川勉氏が「タマネギの特産化について」と題し講演されました。米価が下落する中で、転作作物として農家の所得を増やすことができる作物を検討していたところ、日本では7月〜8月にタマネギを輸入していることが分かり、取り組むことになりました。おりしも中国産の輸入ハウレンソウから残留農薬が検出され、学校給食に安全な食材をとの機運が高まったことも後押しとなりました。

## 眼鏡のように普及を

要請内容は次の3項目。

- ① 助成の対象者を「市民税非課税世帯」に限らずもっと間口を広げること、助成金額上限2万円を上積みすること、補聴器の耐用年数5年後にも再助成すること
  - ② 各種健康診査等の問診票に「聞こえ」の項目を加えて、市独自の「聴力検診事業」(※)を創設すること
  - ③ 県や国に「高齢者補聴器購入費用公的支援制度」及び「高齢者聴力検診制度」創設と、国に「高齢難聴者の補聴器装用に保険適用」を求めること
- (※) 小中学校では毎年、聴力検査をしており、その検査機器で「聞こえ」が気になる高齢者にも簡易検査をし、その結果を受けて北陸中央病院で詳しい検査をすること。

## 市長「調査の上、予算編成の中で協議したい」

懇談で市長は、「確かにそうだと思う」「眼鏡のように普及しないといけないものと承知している」と話し、市長寿会連合会とも補聴器助成の件で懇談したことにもふれ、「制度をつくった以上、皆さんに使って頂きたいのでもっと周知に努めたい」と語りました。

支部役員から、「ある補聴器業者では、4月以降、申請書用紙を渡した人は約10人、うち申請・交付となった人は4人。対象外が明らかな人には、はじめから申請書を渡していない。(11月中旬時点)」と紹介。市長は「ニーズがあるようなら、制限枠を取っ払ったらどうなるか、額の上乗せや5年後の再助成など調査させて欲しい。予算編成の中で協議したい。頑として要望を受け付けられないと言う態度はとりたくない」と前向きに応じました。

## 市長「市が実績を上げ、県・国も動かしたい」

さらに、市から県・国へ求めることについて、市長は「大事なことだ。市長会でも取り上げたいし、ワンチームとやまの会議でも申し上げていきたい。そのために、当市での実績を上げたい」と答えました。

## 地元産、安心・安全な食材を学校給食に

2008年から取り組みをはじめ、畑作業に必要な機械はJ Aが購入し、農家に貸し出しました。最初は単収が上がらなかつたため、雪国の富山県にあった栽培方法を研究し、徐々に作付面積が増え単収も上がりました。22年度は136haの作付で、6千3百トン生産し約7億円の販売金額となっています。農家には3haで1千万円の収入になります。地元産の安全な農産物として、砺波市の学校給食に供給しています。J Aとなみ野と農家との契約は、生産量の30%が契約単価で、残り70%が市場流通価格です。

日本の農業を守るために、米価を上げる政策を国に求めるとともに、国産・地元産の作物生産を支える補助金などが重要であることを実感しました。

